森田 美咲
MISAKI MORITA

kimai music
MISAKI
～その島唄は言魂となり心を震わす～
¥2,000

プロフィール
・1995年2月20日生まれ
・17歳・鹿児島県大島郡天城町前野出身
・徳之島高校3年生。
・5歳の頃から島唄、三味線を習い始め、少年少女奄美連合大会に初出場し、奨励賞を受賞してから島唄に興味を持ち祖父と伴に練習をする様になる。
・中学校3年生（14歳）の時、平成21年度民謡民舞少年少女全国大会の中学校の部日本一決定戦にて優勝し「民謡中学生日本一」の称号を獲得。
・2010年に徳之島キマイミュージックよりデビューアルバム－MISAKI－～その島唄は言霊となり心を震わす～を発表。
・高校2年生（16歳）の時、平成23年度民謡民舞全国大会の青年の部にて優勝。
・現在、島内外の様々なイベントで活躍中。

主な大会の成績
・民謡民舞少年少女全国大会
　平成16年度小学校低学年の部優秀賞
　平成18年度小学校高学年の部第9位
　平成19年度中学校の部優秀賞
　平成21年度中学校の部優勝
・民謡民舞全国大会
　平成23年度青年の部優勝

2012年4月19日㈭に開催されました福岡大学講演会「博多の味をアメリカで、来たれ若者」の感想文をご紹介したいと思います。

EIIO2065　緒方 寛人

自分を追い込んで、やることをやる。やることを一所懸命にやったことが自信につながっていく、明日につながる。今回の講義を通してこのようなことを強く感じた。

幼少のころは荒々しい闘牛の世話をして、体が小柄だろうとけんか番長に登りつめたりといろいろなことを挑戦し続けてきたということがよくわかった。その度に自分を追い込んでいき、できないは執念の欠如、自分が絶対やろうと思ったら可能性は見えてくるという言葉はいたく感銘を受けた。

重田さんがおっしゃっていた数多くの言葉はいまでも覚えているが、特に印象に残っているのが、「反省と後悔の違い」というものだった。後悔はものごとを中途半端にしかできなかったときに思えてしまう。反省はものごとを一生懸命にやった時だけに見えてきて、それが次につながっていく。後悔は終わった後には何も残らない。反省は終わった後には点が残っている。反省を重ねていくたびにどんどん点が増えてくる。その点と点がつながって線になっていく。それが自分を成長させていく糧になる。今回の講義ではこの言葉は忘れられない言葉になった。

また個人的には矢沢永吉さんの話がでてきたときは少し驚いた。父親が永ちゃんのファンだったので、矢沢さんのことは同世代の人よりも知っていた。そのため、この話がでてきたときには興味をそそられた。シゲちゃん、オジキと呼び合う仲でその時の会話での「人生は帳尻が合うようにできている」という言葉にも、実際にあきらめたことはないが、永ちゃんならいいそうだなと勝手に思った。

講演の内容もそうだが、講演の内容にもとても熱がこもっているというのが分かった。なぜなら話しているのと連動して手のジェスチャーもしきりに動いていたからだ。僕たち大学生に対して自分の思い、考えていることを丁寧に全力で伝えようとしてくれているのが分かった。

質問の時間では焼き鳥の味をアメリカ人に合わせないという話は意外だった。というのも現地の人の好みの味にしたほうがもうけも出るだろうし、喜んでもらえるだろうと考えたからである。しかし、なぜ味を変えないでそのままの味で勝負しているのか聞いたときに納得した。自分も自分が信じるものをじぶんでいかいて本当の意味で相手に動めることができないと思えた。

できることは一生懸命にやる、こまかしてないからり自信につながる、逃げずにチャレンジする。自分も失敗を恐れずにいろんなことに挑戦していき、たくさんの反省をし、自己投資をしていきたいと思う。

EIIO2197　原口 幸依

『何か目標を持って、それに向かってひたすら進む。』果たして、今の自分に、今までの自分にあっただろうか。重田さんのお話を聞きながら、ずっと自分に問いかけていました。もともと勝負ごとは嫌いだし、誰かの上に立ちたいとも思わないし、1番になりたいとも思わない。けど、どこか負けず嫌いなところがあって密かに努力するタイプでした。自分にないものを持っている重田さんのお話は、とても新鮮でした。『喧嘩で一番になろう。勝とう。空手で優勝しよう。不動産の賃貸をとろう。お店を出そう。』どれも、自分なら無茶苦茶な目標だって思ってしまいます。それを有言実行でやってのけた重田さんには何か特別な能力があるかと言えば、そうではなかったこと、むしろハンデすらあったことに驚きでした。喧嘩でも小柄な重田さんは大柄な相手と比べれば「負ける」と思われたでしょうし、土木をやっとっ学んでき た人がいきなり不動産の資格をとると誰も思わなかったでしょう、空手で初出場初優勝なんて誰も思わなかったでしょう。でも、それをやってのけた重田さんのある言葉に私は惹かれました。『能力、努力が足りないとかではない。執念の欠如だ。』『目の前にあるものをやり遂げたからこそ、点が線へと繋がる』という言葉です。経験した重田さんの言葉だからこそ重みを感じました。

今の自分には、「何かをしたい」という目標や気持ちすらない状態です。なんとなくで生きていけるんじゃないか、やざわざ大変な思いしなくても…正直なところ、こんな気持ちがずっと続いたまま、周りの人の夢や目標を聞いて焦っている状態です。色んな人に出会って、お話を聞いて私が思ったのは、自力の夢を叶えた人や目標を達成する人の共通点は「ハングリー精神」でした。けど、何がその人たちの気持ちを奮い立たせるのだろうって思います。自分には、この精神が足らないのだなと思いました。今は、どこに進もうにも周りが真っ暗で道すらない状態です。お話を聞いて思ったのが、人生でその時に出会ったものは何かしら意味があるのだということです。その人の生き方次第や頑張り次第などころもあるかもしれませんが、昔やってきたものがこなって役に立つことも結構あります。自分がこうして重田さんのお話を聞いたのも、この先絶対何かに繋がると思いました。重田さんがおっしゃった「後悔は何事もやり途半端なさに生まれ、反省は何かを一生懸命やったときに生まれる」という言葉は、お話の中で一番印象に残りました。

このままで大学生活を終わらせていいのだろうか。講義の最後に思いました。何かいつでもいいからやり遂げたい、もしくはやりたいことを見つけたいと思いました。

『1%でも可能性はある。好きなこと、やりたいことは引いちゃダメだ。』

この言葉を胸に頑張りたいと思います。

EIIO2191　上野 真里奈

重田さんのお話を伺って、人の縁、絆、人間力、本当の意味での一生懸命やるということの大切さを学びました。関係ないと思っていることでも、一生懸命やることで可能性がたがり、人生のチャンスを得ることができるとおっしゃっていて、人との出会い、仕事との出会いを大切にされていました。また、重田さんがアメリカで、あまりうまくいかなかった時があったそうですが、1%でも可能性があり、やると決めたことは引いてはいけないと考え、周りの人にやるときめたことを宣言するのは、すごいプレッシャーだったと思いますが、実際に実現させてしまう重田さんは本当にかっこいいなと思い出した。

また、重田さんは後悔はやっとけばよかったと思うことで、反省は一生懸命やったことに対して生まれ、明日につながるものだと教えてくださいました。たとえ失敗しても、やらない後悔よりは、反省できたから人間らしく成長でき、次につながることができるのだということを学びました。

重田さんの講義を聞いて一番印象に残っている言葉は、"できないことは能力、知識の限界ではなく、やろうという気持ち、執念の欠如"という言葉です。はじめから、これは自分にはできないと思っている限り、できることはないのだと思いました。逆にやろうという気持ちがあればできないことなどないのかもしれないようにも思いました。

また、お店を中心とした大切にしていることの中に、お店の都合でなくお客さんの都合に合わせ、お客さんの気持ちを裏切らないことをおっしゃっていました。お店のことだけでなくすべてのことに対して、重田さんは自分の利益や自分のためになることはしない、まず他人のことを考えてらっしゃるのだなと思った。周りの人から信用されていることが伝わってきました。また、信用があれば何でもできる、信用というのは目に見えない無形の財産であるということを教えていただきました。

重田さんは、お金を追っているうちはお金が入ってこないけれど、やりたいことや使命感に気付いた時、自然とお金が入ってきたとおっしゃっていました。重田さんのお話を聞いていると、お金持ちになって、豪華な暮らしをすることだけが、必ずしも人生の成功とえるわけではないのだと思いました。常に何でも一生懸命で、誰からも信用される生き様はかっこいいなと思いました。

EEIIO256　森川 涼介

自分は重田さんの講義を聞いて、まず一番に「男らしい」と思いました。

前回の先生の講義の内容も、昔はワルをしていただが今は更生して真面目に生きているという内容で、重田先生も昔は総番長などをしていただが今では新興組々どを立ち上げ立派に局長をしているという話を聞いてとても興味が沸きました。ただの不良と思われたくないから勉強しっかり頑張った。これは凄いことだと思います。不良をしていたのならなおさら勉強は嫌いだろうけれども、日々努力を積み重ねて達成すると言ったことは成し遂げるという強い意志を持ち自分に厳しく続けた結果できたことだと思います。

自分は小学二年生からサッカーを初めて、今でも社会人チームでサッカーを続けています。正直、今まで何度も諦めたり妥協したことがあります。自分に甘いこともよくありました。しかし重田さんは小さいころからレッスンプレッシャーを抱えている中で常に妥協せずに生きていらしるので、凄い根性を持っていると思います。今のこのときを大切にしなさいという言葉をきいたとき、今までの自分のいい加減なプレーや中途半端な判断を少し後悔しました。

また、後悔と反省は違う。後悔はやりもしないのに途中で投げ出すこと。反省はやったけどできなかったこと。という言葉も自分に当てはまる気がしました。何もチャレンジせずに無難なプレーをして後から後悔するのなら、失敗を恐れずに挑戦し、リスクを負った方が良いプレーやゴールに繋がるだろうし、もしそれで失敗したとしても、反省してそこからまた何か学ぶことができるかもしれないと思いました。

私生活や勉強の面でも、もうダメだと諦めてしまえば楽な時もあるかもしれないけど、そこで全て終わってしまい自分の夢ややりたいことには繋がらないと思います。努力は必ず実るという言葉はよく聞きますが、実際は必ずしも皆がそうなるわけではありません。でも諦めずに頑張り続けた人なら、その夢が叶わなくても次の道が見えてくるだろうし、また頑張れると思います。

自分は一度なりたい職業を諦めたことがあるけれど、この話を聞いてもう一度目指してみようかと思いました。どんなことでも決めたことは最後までやり遂げようとおもいます。素晴らしい講義をありがとうございました。

EEO90116　中園 諭史

今回の講義の主題は、自分の使命に気付き、自分にできる範囲で妥協せず一生懸命に努力し、そうした生き様を後世に伝えていく、ということでした。この講義では、自発的に気づこうとする心構えの大切さを学びました。私には、普段はその場の状況に合わせて行動するだけという、非常に受動的な姿勢があります。なので、自ら気を配り気づこうとする より能動的な姿勢は、とても勉強になりました。私も接客業のバイトをしているので、次回からは、そうした気配りの心構えでやってみようと思いました。

私が一番印象に残ったのは、他者との信頼・信用についての部分でした。最初に父親が残した周りの人たちと絆の話に始まり、大学時代のバイト先の焼き鳥屋、アメリカで店を始める以前と、始めた後という、それぞれの場面で信頼・信用という単語が多く出てきていました。そして、その信頼・信用という点が線となってつながり、様々な場面で助けとなっていたことを聞き、改めてそうした信頼・信用の大切さがわかりました。私もそうした信頼・信用を作っていきたいと思いました。

また好きな言葉として紹介された「できないのは能力がないのではなく、気持ちの不足。」という言葉には感銘を受けました。最近は能力の面ばかりが重視され、気持ちの面が軽視されているように感じていました。原因は、おそらく最近様々なものが能力のみを目に見える数字という形で表す点数評価が多くなったためなのでしょう。そして、私はそうした風潮に流され気持ちを軽視することが多くなっていました。しかし、やはり気持ちというものは目には見えませんが、物事を行う上で、成否にかかわる重要なものだと改めて気づきました。

そして、お客さんのための営業をするために、投資を受けないという考えには驚きました。私は経済学部なので、投資関係の話を多く見聞きしていますが、やはりそのどれもが投資返済のために お客さんよりも利益のほうを優先していました。そうした風潮のお客さんを一番に考え、投資を全く受けないという経営の仕方には、数字を中心として考えることが多い私には新鮮な衝撃でした。そうした数字で表せず、一見効率性に欠けるように見えるが、様々なものを得られるこうした形の経営も学んでみたいと思いました。

また「日本の文化を育ぶっていくつもりでやっている」という言葉には、新鮮な印象を感じました。最近は個人主義がまかり通っていて、国を育ぶっという意識を持っている人間は少なくなっているように感じます。そうした中で、文化を育ぶっ姿勢はまさに侍のようで、とても新鮮でした。私も日本の文化を育ぶっていえるような自信を持つ人間になりたいと思いました。

EIIO2025　福富 風花

今回、重田さんの講義を聞いて自分を改めて見つめ直す事が出来ました。

私も接客のアルバイトをして1年半が過ぎますが、時給500円・1000円でも安いと思われるようにー生懸命働いたことは、正直ありません。しかし、お客様のニーズに応えお客様が喜ぶ姿を見るのは、とても楽しいと思います。仕事とは、もちろん『お客様の為』が1番ですが、結局は『自分が成長する為』のものだと実感しました。『仕事の大きさは、信頼の大きさである』と言われたように、お客様からも周りのスタッフからも、今まで以上に信頼されるような人間になりたいと思います。

また、新撰組のホームページ（http://www.shinsengumigroup.com/ja）より、『挨拶、礼節、目配り、気配り、心配り を大事にしている。お客さんとの触れ合いの場、自分を高めるところであり、自分の生活の基盤にもなる。挨拶は "気" の交換でもあり、挨拶をすることは "気" を高め、人間がもともと持っている人間力を高めることが出来る。』

この文章を読んで、挨拶の大事さを考えさせられました。挨拶はとても簡単なものではありますが、『こんにちは』『ありがとうございます』と言う言葉1つ1つに、大切な意味があり、何気ない一言でも、それは自分を成長させる大事な言葉なんだと再認識する事が出来ました。

最後に重田さんの、『後悔は明日に繋がらない、反省は明日に繋がる』と言う言葉がとてもぐさりと刺さりました。どんなことでも決めたことは最後までやり遂げようとおもいます。素晴らしい講義をありがとうございました。

EII12077　江田 療子

（1）私はこの講義で学んだことで特に心に残ったことが二つあります。一つ目は、人の「縁」を大事にするということが大切だということです。縁というものは目に見えなくてもしっかりとあって、それに気づくか気づかないかで将来がいくらでも変わってくるのだとわかりました。二つ目は、自分がしようと決めたことは逃げないで立ち向うことが大事。ということです。今回の講義で重田さんが「反省と後悔」という言葉で、反省とは一生懸命して初めてできる。後悔とは能力がないのではなく執念の欠如である。というのを聞いてとても考えさせられました。また重田さんはまこころを伝えることが上手くて、意志がとても強く、一言でいうとっても熱い方だと思いました。番長になったということを聞いたときは少し驚きましたが、最後まで講義を聞くと学ぶことが多く、重田さんの人間性に憧れを抱きました。

（2）私は今回重田さんの講義を受けてとてもポジティブになれたと思います。今までは自分に不利だと思ったことなどからはなるべく避けていて、妥協ばかりしていました。しかしこれからは自分を信じて、何事もチャレンジしていこうと思いました。重田さんが「もし二つの道があって、一つは楽な道、もう一つは苦しい道であったとき、苦しい道を選べ。」とおっしゃっていたのですが、最初は人生上手く生きたさが勝ちだと思っていたのですが、苦しいことを沢山乗り越えてきた人には敵わないのではないのかなと思うようになりました。先ほど言ったように、私は逃げてこまかしてきたところがあるので、出来ないと思ったことでもすぐにあきらめるのではなくて一回自分を試す意味でも自分の弱点を認めて、執念で立ち向っていこうと思いました。今とてもやる気に満ちているのでこの調子で頑張っていこうと思いました。そして重田さんのように大きいことを成し遂げることはなかなか難しいかもしれませんが、今はとにかく縁を大事にしながら、自分ができることを精いっぱいして、いつかこれから作っていく点（縁）が線になり、繋がっていけばいいなと思いました。あと、奉仕の精神を忘れず感謝して生きていこうと思いました。これから就活など、つらいことにたくさん出会うかもしれませんが、そういうときこそ重田さんがおっしゃっていたように、笑って過ごせたら幸せだなと思いました。今回は本当にためになるお話をしていただきありがとうございました。重田さんのイベントの成功をお祈りしています。ありがとうございました。

EIIO2004　四元 延卓

重田さんの第一印象は、とてもパワフルで実直な方、という印象でした。そして、その印象は最後まで変わることはありませんでした。私も同じ鹿児島県の出身なので同じ故郷ということでとても親近感が沸きました。その、鹿児島県の徳之島で毎日闘牛の世話をしてこられたそうで、重田光康先生のパワーと精神力はここから生まれたのではないかなと思いました。

また、重田さんのお父さんの「生きさま」の話をされたとき、かっこいいなと感じました。人は死んでも「生きさま」は永遠に残るものだ、という言葉は心に響きました。そして、つぎはぎだ「生きさま」の残しかたは分かりませんが、将来「生きさま」を残せるような人間になりたいと思いました。

「仕事の大きさ」は、「信頼の大きさ」」という言葉にも、なるほどな、と思いました。大きな仕事を任されるということはそれだけ信頼されているということだ、ということに気づかせて頂きました。大きな仕事というのは、それだけ責任が大きいですが、それを嫌がらず信頼されているんだ、という気持ちで頑張っていこうと思います。

自分がやると決めたことに対してやりきることで自分に対する納得度を高める、という言葉が、自分の中でやるほど、と思いました。それは、自分が納得できるまでやりきらなければそれは後悔につながるし、やり切ることで見えてくる何かがあるんじゃないかな、と思ったからです。納得度を高めるという言葉を聞いた時に、自分がやりたかったことを言葉で表現していただいたような気がしました。

お客様の都合に合わせるのが本当の商売、お客様が必要としているものに以外でコストを削減する、などの言葉を聞して、本当にお客様のためを思って仕事をしているんだなと思いました。お金を追いかけるのではなく、お客様のために思って商売することで自然とお金が入ってくるようになっていると思いました。

自分の生き様の目的は「人を教育すること」だと仰り、その目的に気付いた途端不思議と繁盛するようになった、とのことでしたが、やはり、儲けようとすると何となくお客様にもそれが伝わり、離れていってしまう、逆に、儲けるためではなくくらから喜んでもらいたいという気持ちで教育を行うようになったことによってお客様にもそれが伝わって、繁盛するようになった、と自分なりに解釈しました。

今回の講義で学んだことは、自分が納得するまでとことんやるということと、心からお客様のために仕事をするべきだ、ということです。

EII12058　山中 規彰

重田先生のご講義、とにかく熱かったです。90分間お話を聞いて「この言葉が心に残った」というより、重田先生の熱い気持ちが私の心に響きました。ひたすら全力、お客様のために、そして講義をされるにあたって私達にお話をするのではなく「学生の皆さんにお話をさせて頂く」という謙虚さ、本当に素晴らしい方だと感じました。

もちろん、お話もとても面白かったです。奄美大島のご出身、幼い頃は命の危険もある中での兄と一緒に闘牛の世話、父親との別れ、鹿児島工業高校にて総番長、大学での教授との出逢い、そして、人生の転機となった焼き鳥屋でのアルバイト、アメリカに渡り修行、空手の全米大会初出場初優勝と同時に不動産資格も取得、出店するも上手くいかない、お金は追いかけると逃げていく、一番はお客様のために、最後まで感心するお話ばかりでした。

その中でも印象に残ったのが、やはり「お金は追いかけると逃げていく、一番はお客様のために」です。私はベンチャー起業論の講義を1年の頃から受講しいろんな経営者の方々のお話を聞きましたが、どの経営者の方たちも共通は社会貢献活動をなさっておりましたもの。それが今の成功につながっているのだと感じました。他の企業や会社も重田さんのような理念や考え方を持ってくれたら、もっと日本は明るい国になるだろうし、幸せだと感じる人も増えると思うので、重田さんには講演活動を通じて多くの人に訴えていってほしいです。

私が今回重田さんのお話を聞いて特に励まされた言葉があります。それは「できないのは知識や能力がないからではなく、執念が欠如しているからだ」という言葉です。私はいつもできない理由を考えてばかりで、何事もやっても無駄だとか、向いていないのだと考えていました。努力もせずに逃げていて、自分自身こそが一番の問題だと気づきました。これからは失敗を恐れず、また1パーセントでも可能性があるならあきらめずにいろいろなことに挑戦していきます。また私は重田さんのような周りの人から信頼され、なんでも任せてもらえるような人間になりたいです。そのためには、重田さんのおしゃっていた縁や粋を大切に、お前なら任せられるといってもらえるよう頑張ります。

重田さん本当にありがとうございました。

奄美から世界へ
園田 明さんをご紹介いたします

「離島という環境を言い訳にして、夢や仕事に制限をかける必要はない。地球規模の視野で考え、地域視点で行動する。やり方によっては可能性はかぎりなくある。」

奄美市名瀬出身の園田明さんはバスケットボールのユニフォーム製造で国内外から注文を受けている「バイオレーラ」というブランドを展開し、NPO法人の奄美スポーツアカデミーの理事長やJBL2部レノヴァ鹿児島の球団代表などを勤め精力的に活動されています。

奄美発ブランド　バスケ界席巻

デザイン力、ユニホーム評判　米プロも採用

http://yayorela.jp/

■バスケットボール用品を扱う「YAYORELA」の代表を務める傍ら、アウェー戦にも数多く顔を出す。「心の叱咤激励が役割」という、連敗中は「勝ったら新しいユニホームをプレゼントする」とチームを鼓舞。ロッカールームでは作戦会議を交えて雰囲気を和らげる。選手の兄貴的存在。チーム戦敗時からウワ下提供を続けて2年目には球団代表に就任した。「鹿児島バスケ界の尽力があってつくられたチーム。県民に元気を与えるかお」

園田　明（そのだ　あきら）さん

手助けをしたかった」と動機を語る。

奄美市名瀬出身。川内高時代には高校総体、国体で全国の舞台を経験した。ポールを持ったら「いけいけ」の超攻撃型フォワード。1試合12本の3点シュートを決めたこともあり、小柄だった小生だが、参加。果敢にゴールへ、切れ込んだ瞬間、右ワキレスけんが断裂した。「前日、レノヴァが鹿児島に戻ってずたずたに切られた。最近、松葉づえ生活から復帰したばかりだ。早くに父をなくし、母子家庭で育った。それだけに「一番に考えてしまう。出張で日本各地を飛び回っても、中学生と小学生の息子と明食で顔を合わせるように心がけている。44歳。『運動部』一緒方機」

金沢中でバスケットボールに出合う。「いろんな仲間を経験することでもんまれ、大きく成長できた。自身の経験を生かし、地元奄美では小・中学生の指導を20年以上続ける。1月、東京であった社会人の全国大会に「YAYORELA」のユニホームでプレーさせるよう心がけていた。「ボールへ、中学生と小学生の息子と明食で顔を合わせるように心がけている。44歳。『運動部』一緒方機」

★たけしが絶賛した映画の裏方さん
東スポ映画大賞：技術スタッフ賞＜宗特機有限会社＞

ビートたけし審査委員長は「宗特機はベテラン。役者の歩くスピードもわかっているし、（技術は）すごいものがある」と話した。泰良社長は「特殊撮影技術は地味な部署です。でも黒澤明監督から『君らがいないと撮影は成り立たない』と言われたことがある。今年は会社ができて25周年。この賞を糧に明日からも頑張っていきます」と受賞を喜んだ。

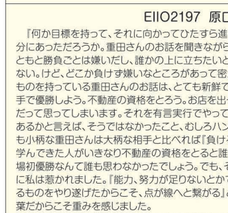
徳之島出身
泰良宗男社長

秋元氏同様、縁の下の力持ち"なら宗特機・泰良社長

●特殊撮影機材
宗特機

技術スタッフ賞を受賞した宗特機有限会社は、撮影現場でクレーンなどの特殊撮影機材を手がけている。緊張気味にステージに上がった同社の代表取締役・泰良宗男社長（51）にたけしは「（AKB49プロデューサーの）秋元康殿！とキャグを飛ばした。確かに泰良社長の容姿は秋元氏に似ていたため、場内は大爆笑となった。だがもちろん、たけしはキャグだけでなく技術も絶賛。「宗特機はベテラン。役者の歩くスピードもわかっているし、（技術は）すごいものがある」と話した。泰良社長は「特殊撮影技術は地味な部署です。でも黒澤明監督から『君らがいないと撮影は成り立たない』と言われたことがある。今年は会社ができて25周年。この賞を糧に明日からも頑張っていきます」と受賞を喜んだ。

"世界の黒澤"も認めた



順田ひろみ

徳之島・天城町出身の島唄者。セラピスト田嶋洪蓉（たじまこうよう）としても活躍中。
http://koyo-sha.net/

<じゅんだひろみプロフィール>
奄美諸島　徳之島天城町出身。8人兄弟の末っ子。島の自然の中で遊び、天真爛漫に育つ。父親は農業と牧場を営み、闘牛の横綱を2頭育て上げ、セコ（場内で牛を戦わせる闘牛士）を務めた。また、相撲でも小さな体ながら「土が付いたことがない」と言われる程強かったという。

そんな父親譲りの身体能力で、9歳（天城小学校3年生）で始めた剣道は、4年生で初めて出場した全島大会小学校女子の部で最年少個人優勝。習い始めて一年後のことでした。（剣道を習うきっかけとなった兄姉は、その後も剣道を続け島で最初の教士7段合格者。現在剣道を通して青少年の育成に情熱を燃やしている。）

13歳（天城中学校1年生）の時、怪我の治療の為千葉県の海神中学校へ転校。中学の殆どが入院生活となった。初めての大きな挫折に精神的にも大きなダメージであった。

怪我の後遺症を克服しようと、それまでの西洋医学だけの治療から、東洋医学等心身について学びはじめる。19歳の時、野口晴哉の生命に対する洞察に感動し野口整体を学び。
また、仏教にも興味を持ち真言宗智山派、宮坂宥洪氏に弟子入り洪蓉の名を授かり、多くの学びを得る。

その後、セラピスト吉福伸逸氏と出逢い師事。自分自身の心身を丈夫にする為の学びを深めるにつれ、様々な相談を受けるようになり、心身の不調あるいは人間関係などあらゆる問題を抱えた人達に対応するセラピストとして活動を始める。

バークレー音楽院を卒業しジャズベーシストでもあった吉福伸逸氏等のすすめで、2009年から奄美、琉球のシマウタを、2010年頃から作詞作曲を始め現在に至る。

島で生まれ育ったこと、自然の中で身についた野生の感覚、そして人々の繋がり、結の精神。島全体が私にとって素晴らしいマトリックスとしての役割を果たしていたことを思います。島で教わった知恵。そして、美しい言葉。それらを多くの人々に伝えていきたいと思います。
生きることがしんどくなった人、また不登校などの子ども達、そういう人達の居場所になってあげたいと。そういう人達の生きる力を呼び覚ますようなる、そんなお手伝いができればうれしく思います。

3人の子を育てる母でもあり、充実した日々を送っています。
情熱を身にまとい、自分に正直に生きるをモットーに…。

…ついでに…エピソード1

私が入院中、歩くことも出来なくて、ベット上でしか生活できなくなっていた時のこと。

新聞で「大加持折褲を受ければどんな難病も助かる」という広告を見た父は、藁にもすがる思いで、宮崎県の高千穂山の山中を一週間も、その行者さんを探したそうです。

夜は野宿して、殆ど飲まず食わずで、お加持いただく為の私のバジャマだけ持って…。
しかし、どんなに探しても、行者さんには会えず。
とうとう島へ帰ってきた…その夜のこと

…そんなことを何も知らない私が、一体どれ位ふりのことだったのか？
ベットから、遠い出して、初めてトイレに行ったのです。

親が子を想う、想いというものの大きさとは、こういうものですね。
私は、父のそれを知って、どんなことがあっても生き抜こうと思いました。
本当に感謝しても、しても足りないほどのものをいただきました。

「親（ウヤ）や三年牛（ミチウシ）ぬ毛ヌサコー」という言葉が島にあります。
親の想いというのは、生まれて三年の牛の毛（敬えきれない）のようだという意味です。

第2回さつま新撰組決起集会

新撰組夏祭りに向けさつま新撰組としての協力体制を確認しました。

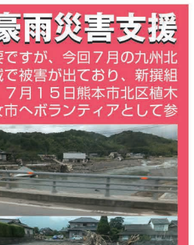
森圭一郎くんの自伝コミック発売のお知らせ

9月15日発売
『うたで走り抜く』
書き下ろし新由CD付き
（3曲収録・非売品）
定価1,500円（税込）
発行／少年画報社

※お買い求めはネット書店、少年画報社通販サイト、または、お近くの書店でご注文ください。

新撰組まごころ同志会
九州北部豪雨災害支援

東日本大震災の支援活動もまだまだ継続が必要ですが、今回7月の九州北部豪雨では福岡県、大分県、熊本県の広い地域で被害が出ており、新撰組まごころ同志会としても支援を考えています。7月15日熊本市北区植木町、7月16日阿蘇市、7月20日福岡県八女市へボランティアとして参加しましたが、どこも高齢者が多い地域で被害が大きくボランティアの手が足りない状況です。また、支援物資や資材も不足しており、同志会として物資の提供など一部支援をしましたが、今後さらに支援が必要だと思われます。このような大自然災害は今後どこで起きても不思議ではなく、すぐの対応が必要です。同志会が掲げる社会貢献の一環として今後とも活動していきたいと考えています。今後とも同志皆様の温かいご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。　川副嘉久



上野 亮之介
（うえの りょうのすけ）
名桜大学
1年生

この度、名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科に合格しました、上野亮之介です。
自分は将来スポーツトレーナーになるのが夢でスポーツ関連の学部に進みたいと思っていました。
小学校では水泳、中学校では野球、高校ではラグビーとずっとスポーツに関わっていました。好きなスポーツを職業に出来ればいいなと思っていました。
ですが、部活を引退した後も勉強に精が入らず、学校の皆とも差が広がるばかりでした。
しかしこれではいけないと一念発起し、勉強に励み、名桜大学に合格することが出来ました。
名桜大学では、スポーツにおける怪我の対処法や筋肉の発達を学び、将来一生懸命頑張るアスリート達の補助が出来るよう頑張って行きたいです。
これからも人生の壁は厚く高いものばかりだと思いますが、夢に向かい精一杯頑張りたいです。

新撰組まごころ同志会ホームページは、まごころ同志会で検索してね！ URL http://www.geocities.jp/magokorodousikai/index.html